



令和2年5月18日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢
(コード2388 東証JASDAQ市場)
問合せ先 開示担当 小竹 康博
(TEL 03-6225-2207)

**Group Lease PCL 2020年第1四半期の業績を発表。
中核事業は継続して利益確保。
特別費用により115.42百万タイバートの純損失を計上。**

当社の重要な子会社でありますSET（タイ証券取引所）上場のDigital Finance会社Group Lease PCL（以下GL）は、同社がSETに開示した2020年第1四半期の業績についてプレスリリースを公表いたしましたので、日本語訳にてご紹介いたします。

（以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳）

中核事業は継続して利益を確保。特別費用により115.42百万タイバートの純損失を計上。

Group Lease PCL（以下、当社またはGL）の2020年第一四半期の業績は、訴訟費用、為替差損及び新型コロナウイルス感染症（Covid-19）関連の引当金を含む特別損失の計上により、115.42百万タイバートの純損失となりました。当社は、既に新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に抑えるための対策を可能な限り実行し、今後も中核事業が継続して利益を確保できるよう我々独自の成長戦略を進めてまいります。

GL CFOであるAlain Dufes氏は、2020年第1四半期の業績について以下のように説明しました。今期における115.42百万タイバートの純損失計上は、主に次の特別費用の増加によるものです。まず訴訟費用として28百万タイバート、次に82百万タイバートに及ぶ新型コロナウイルス感染症関連の引当金、そして為替差損として52百万タイバートの計上です。これらの3つの特別費用の合計は163百万タイバート以上となり、これらの特別費用を除くと今期は利益を計上した形となっていました。この度の新型コロナウイルス感染症流行による甚大な景気悪化は予測不可能なものでしたが、幸い我々は直近2年間において事業の効率性を更に高めてまいりました。タイにおける現在の取引ディーラー数は1年前と比べて17%増加しました。しかし、割賦及びリース販売におけるクレジット審査基準をより厳格化したものに変更したことにより、経済危機が始まった今年3月及び景気悪化が進んだそれ以降においても質の高い顧客の獲得を維持することが出来ました。販管費は、前年度比及び前四半期比で減少しており、この不安定な経済状況を乗り越えるために非常に有効であると考えます。

資産担保ローン事業においても事業効率化の施策実行により、1支店あたりの契約数は73%

増加、同時に経費削減を達成するなど良い結果が表れています。

タイ以外の事業において我々はマイクロファイナンス事業に注力し、事業拡大を達成し、グループローン事業の売上は前年比27%増となりました。今期の業績は、訴訟費用、新型コロナウイルス感染症（Covid-19）関連の引当金及び為替差損の計上により純損失という見出しになりましたが、今後は中核事業の好調な業績を見出しとして打ち出すことができると確信しております。

GL CEOである此下竜矢氏は以下のように述べました。我々は直近2,3年間において事業の効率化を徹底的に図り、強固な事業基盤を構築し、昨年より事業拡大を再度開始しました。現在、経済は不明確な状況にあります。しかし、我々は手元資金として32億タイバーツを保有しており、この不安定な経済の中においても優良な顧客に対して必要な所で必要な時に資金を提供してまいります。我々は強固な事業基盤を活かし、継続的な事業成長に注力し、市場シェアの拡大を進めます。CFOの説明の通り、今四半期は為替差損及び新型コロナウイルス感染症（Covid-19）関連の引当金を含む非現金費用の計上により損失を計上しました。また、訴訟費用も今期の損失計上の要因となりました。

我々の本業は利益を計上しており、しっかりとした手持ち資金があります。今後素晴らしい業績を皆様ご報告できるよう努めてまいります。

以 上